



生きてみようか。

03

* News Letter *

結晶母

Terra Renaissance

佐賀県からも、 平和の種をまいて



島彰宏（しま あきひろ）
1989年、京都府生まれ、神戸大学大学院国際協力研究科修了。小学生の時に曾祖父が広島原爆で亡くなったことを知り、世界平和に関心を持つ。大学院卒業後、旅行会社にてWEBマーケティングに従事。2017年10月より、テラ・ルネッサンスへ入職。現在は、広報やファンドレイジングを担当すると同時に、佐賀事務所のスタッフとして北部九州を中心とした講演活動を行うなど幅広く活動している。



真剣な眼差しで子ども兵について聞き、自分にできることを考えている学生の皆さん。その姿は、自らが持つ平和への想いをさらに強めてくれるものだった。



佐賀県として活動を支える力強い姿勢を感じ、平和の輪を広げることへ、さらに身が引き締まる想いに（写真左から：佐賀県知事、弊会鬼丸、佐賀未来創造基金・山田さん）

佐賀県へ事務所開設 九州地域における活動を 幅広く展開しています

佐賀県が勤めている「CSO（NPO）誘致」事業の一環として、同県からお声がけをいただき、テラ・ルネッサンスが佐賀に事務所を開設して11月で一年が経ちました。九州地域での啓発活動をより強めたいと考えていたテラ・ルネッサンス。この一年間、アフリカ、アジアの課題を伝え、そして、できることは何かを考えていただく機会の提供を行い、佐賀から平和の種まきを続けてきました。

県内の中学校で、お子様といっしょに講演を聞いてくださった保護者の方からは、以下のように嬉しい感想もお寄せいただきました。「うちの娘も、『あんなにわかりやすく説明してもらえたら、遠い国の問題じゃない気がする』ととてもわかりやすかった。今までにもペットボトルキャップや、書き損じはがきを集めたことはあったけど、それが何のためか、誰のためになるのかなんてあまり考えずにやってた。書き損じはがきや古本が、アフリカの子どもの給食代になるなら送らなきゃ！」と話してくれました。「ひとりの力は微力かもしれないが無力で

はない。』この言葉を合言葉にこれからも我が家で折に触れ、世界平和のためにできることを考えていきたいと思えます。」

「ふるさと納税」で、 テラ・ルネッサンスへ 寄付できるように

また、佐賀県を通して取り組む「ふるさと納税」事業では、昨年度累計109件（人）の方から400万円を超えるご支援をいただきました。いただいたご寄付はウガンダの元子ども兵の事業、そして、佐賀県内での講演やイベントによる啓発事業に活用させていただきます。この「ふるさと納税」は、弊会、そして弊会が取り組む課題を今まで知らなかった方々にお伝えできる魅力があり、全く新しい形での共感の創造だと実感しています。

この一年、佐賀での事業を通して、多くの方に世界で起きている課題、平和に向けて行動を起こす大切さをお伝えしてきました。それでも、まだ一年です。また平和の種が芽吹き、平和への意識の変化が誰の目にも見える形になるまで時間がかかるかもしれません。「佐賀は平和の意識が高い」と注目されることを目標に、これからも平和の輪を広げ続けてまいります。

この他にも、
たくさんのお返礼品が
あります！



2万円のご寄付

佐賀産和牛
しゃぶしゃぶすき焼き 300g



5万円のご寄付

有明の風 プレミアム焼のり
7袋セットD

ふるさと納税（寄附）で
活動を応援できます！

申し込み方法など、
詳しくは特設サイトへ



<https://www.furusato-tax.jp/city/product/41001/135>

乳製品の生産・販売で、収入が向上しました

2017年8月より、国連開発計画（UNDP）と協力して、コンゴ東部で紛争の被害を受けた女性たち250名を対象に支援活動を行ってきました。

この地域では植民地期から続く暴力と搾取と分断の連鎖で、多くの子どもや女性たちが最低限の生活すらできない状況が続いています。中でも性的暴力を受けた女性や紛争下で生きる最貧困層の人々の自立は急務でした。今回のプロジェクトでは、彼女たちへチーズ製造の技術訓練や、乳製品のブランディング、生産・販売拠点の整備を行うことで、自立と生活再建を後押しするものです。そして、2018年3月、ついに対象者たちが協同組合を組織化し、付加価値を付けた乳製品を製造、販売し、収入を向上させることができました。

また、そうして得た収入をグループで貯蓄をする活動も機能し始めました。あるシングルマザーの女性は、子どもが病気になること、仕事に行けなくて、その日の収入を得られず、さらに子どもたちの生活状況が悪化するという悪循環にありました。しかし、乳製品をグループで協力して販売し、収入を貯蓄することで、この不安は大きく低減しています。

今後も、このプロジェクトを通して、彼女たちの自立と生活再建を見守ってまいります。



コンゴ東部で紛争被害を受けた女性たち。協同組合の設立と、収入の向上で、暮らしの安心を取り戻しつつある（写真中央：小川）

家畜銀行で、三匹目の子牛が生まれました

2017年度より、JICAとともにカンボジア地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援活動を行ってきました。その中で実施している家畜銀行では、1年目に牛の飼育に挑戦していたオウク・ヴィさんの世帯で、9月上旬に子牛が誕生しました。ヴィさんは、クメール・ルーージュの兵士だった際に、現在の自宅から3キロ離れた場所、地雷によって右足を奪われました。ヴィさんの住むこのカムリエンの地には、多くの地雷が埋められていたのです。



このプロジェクトで10世帯に牛を貸し出す際に、ヴィさんに提供されたのは一番小さな牛でした。しかし、熱心な世話の甲斐あって、現在はその世帯よりも立派な牛に成長しました。娘夫婦が畑に出て仕事をし、ヴィさんご夫妻は毎日牛が食べる草を刈ったり、牛を草のある場所まで連れて行ったりと丁寧に世話をされているそうです。牛の出産について聞くと、「緊張はしなかったけれど、やっぱり嬉しかった」と話すのはヴィさんの奥さん。牛の誕生は、牛銀行に挑戦している10世帯の中で、三匹目となります。牛は繁殖や成長に時間がかかりますが、大きくなれば1頭1300\$程度、大きなものなら2000\$以上で売ることができます。

ヴィさん夫妻をはじめ対象者の方々の生計向上への挑戦を、これからも応援し続けたいと思います。



ヴィさん夫婦が育てている牛の親子、特にヴィさんの奥さんに懐いています。

テラルネなひとびと



スタッフ編 江角泰 *Tai Ezumi*
アジア事業 マネージャー

スオ・スダイ! アジア事業プロジェクト・マネージャーの江角です。クメール占い師に、今年はあまりよくない年だね!と言われ、最近必死にお祓いをしています。

私がカンボジアやラオスで好きなのは、共有する文化。ご飯は必ず周りの人に一緒に食べるように声をかけます。バスの隣の知らない人にも何か食べる時には“どうぞ”と声をかけます。共有するだけでなく、見ず知らずの人との会話が始まります。

事業で取り組んでいるのは、地雷や不発弾被害者の自立支援です。目指すのは、多様なつながりのある「自立」。日本人の多くが勘違いしている「孤立」していく



「自立」ではありません。人間のつながりや自然の多様性の中で暮らしてきたカンボジアやラオスの伝統的な生活は、持続可能でしなやかなものでした。戦争とその後の自由経済の流入で壊されてしまった自然や伝統的な暮らしの知恵を取り戻し、活かしながら、多様なつながりのある「自立」を日本へ、世界へと広げていきたいと考えています。



ファンクラブ編 落合 一行さん
消防局 勤務

鬼丸さんの講演で地雷や子ども兵の話を知り、災害現場以外でも助けを求める声があることを知りました。カンボジアを訪れた際、受益者が口を揃えて「テラルネに出会えて良かった」と言っていたことに感動し、支援し続けようと思えました。またテラルネが大切にしている「自立と自治」が、職場を良くしていくために大切だと思っていたことと同じで、共感が高まりました。小5の長男とウガンダツアーに参加しましたが、次は次男も!

ファンクラブ会員、募集中!

1口1,000円(毎月)から、活動を応援できる「ファンクラブ会員」。情報満載の活動レポートや、海外からのポストカードなどをお届けしています。お申し込みはホームページ、またはお電話でも受付中。すでにファンクラブ会員の場合は金額変更も可能です。お気軽にお問い合わせください。

テラルネサンス ファンクラブ

電話 075-741-8786 (月-土 10時-18時)

海外の支援とともに 未来の地球を感じて

活動レポート

アウェアネス・レイジング事業マネージャー 栗田佳典

「ささやかですが、お使いください。」「親戚を回って集めてきました!」やさしい一筆を添えて送ってくださる、書き損じはがき。「学校で呼びかけて、集めました!」生徒会中心に校内で呼びかけ、高校生たちが集めてくださった古本。日々、私たちはめぐるプロジェクトでの支援が届くと、協力してくださった皆様方の思いを知り、心があたたくくなります。

古本やはがきを集めるため、会社や学校で回収ボックスを置いて呼びかけてくださるなど多くの方のご協力によって、活動を継続させることができています。年末の大掃除で出てきた昔のはがき、不要になった本やDVD、CDやゲームなど、家の整理とともに、海外への支援のため、そしてはがきのリサイクル、本の有効利用など環境を意識した未来の地球のため、今年度もご協力のほど、よろしくお願いたします。

協力いただいた方の声



総合的な学習で地雷のことを知り、生徒たちが自分たちで調べて、家族によびかけ、はがきを集めました。ご活用ください。



実家で眠っていたはがき、古本があったので追加で送ります!

2017年度の成果(はがき・古本)



15,025枚(163件)
789,029円



24,254冊(292件)
729,626円

TOPICS

2018年の回収支援・強化月間がスタート! 書き損じはがき、不要になった本をお送りください

2018年10月1日~2019年3月15日まで広報を強化し、回収支援の協力を募るため「めぐるキャンペーン」を実施中です。特に、書き損じはがきや、キフブック(不要になった本)の呼びかけを強化し、ウガンダやカンボジアなどの活動地域での円滑な事業運営のために、該当期間で右記目標の達成を目指します。(※キャンペーン期間終了後も、はがきやキフブックの回収支援を受け付けています。)詳しくは、右記URLにあるテラルネサンスのホームページをご覧ください。

2018年度・めぐるキャンペーン目標

書き損じはがき ... **100万円**(相当分)

キフブック(古本) ... **60万円**(相当分)

テラルネサンス めぐる 2018



パソコン・スマートフォンでホームページをご覧ください。

電話 **075-741-8786**

[受付] 月-土、10時-18時
[担当] 栗田(くりた)

WEB <https://www.terra-r.jp/megurucmp2018.html>





Instagram 世界の扉絵 .03

肌に刻んできた一本いっほんの筋目が、年輪を重ねた大木を想わせる。線の長短やその深さ、幅の広さに彼の生き様が現れ、いまの彼をつくっている。すべてのいのちが優しい香りに包まれる社会が、その瞳に映るように。丁寧に寄り添いながら、ともに未来を見てみたい。



アジア事業
サブマネージャー
延岡由規

Instagram yuki_nobuoka

Instagram terra_ngo

「最新の活動ブログ」や、「直近で参加できるイベント」など、公式サイトが少しだけ新しくなりました。



アジアやアフリカでの活動をはじめ、日本国内での平和教育や、岩手県大槌町での震災復興支援など、私たちの活動は多岐に渡ります。日本からご支援いただく皆様からの応援の気持ちに伝えるべく、今年度、ホームページを少しだけリニューアルしました。特に新しくなったのは「ブログ機能」で、海外の支援活動レポートをはじめ、スタッフによるお楽しみブログなど、ここだけの情報が満載です。また、「直近で参加できるイベント」という項目も新たに追加。日本全国で実施するイベントや講演会に、もっとたくさんの方ににご参加いただきたいと考えています。

- 日常シリーズ・カンボジア事務所の場合 -



キラキラで豪華な柱です



壁一面びっしり!

寺院が多い国としても知られるカンボジア、日本の安土桃山時代のお寺も顔負けの豪華さに驚きです...!

News Letter.03 結晶母

2018年11月15日発行

発行 行◎ 認定NPO法人テラ・ルネッサンス

発行責任◎ 小川 真吾

企画編集◎ 小田 起世和

表紙写真◎ 延岡 由規

本書の一部または全てを複写・転載引用する際には、予めテラ・ルネッサンス事務局までご連絡ください。

© 2018 Terra Renaissance